

第 32 卷 PDF 読本



身延線（富士～甲府）

御殿場線（国府津～沼津）

富士急行線（大月～河口湖）

2024年10月18日 歩く鉄道作家 樫原 勉

<目次>

はじめに

第1章 身延線（富士～甲府） 5

第2章 御殿場線（国府津～沼津） 24

第3章 富士急行線（大月～河口湖） 35

身延線：88.4 km

御殿場線：60.2 km

富士急行線：26.6 km

総営業キロ 175.2 k m

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第 27 弾目として、東海道本線、中央本線に接続する、神奈川県・静岡県・山梨県を走る、富士山を眺めながら歩く、身延線・御殿場線・富士急行線の旅（総営業キロ 175.2 km）について執筆させて頂きました。

本作品はカッシー館にある檜原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 41 作目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

(2005 年 11 月～2007 年 2 月で踏破)

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅“PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「樫原勉文庫拡充」にて、次のPDF 読本からダイジェスト版でもご閲覧頂けます。

第 24 編（日本横断歩き鉄の旅）

身延線・小海線



浅間神社

2021年10月22日 歩く鉄道作家 樫原 勉

第 15 編（日本横断歩き鉄の旅）

湖西線・参宮線 武豊線・御殿場線



伊勢神宮
鳥羽港



2021年2月15日 樫原 勉

第 37 編（日本横断歩き鉄の旅）

富士急行・関東鉄道 小湊鉄道・銚子電鉄・流鉄



大月駅

2022年1月18日 歩く鉄道作家 樫原 勉

第1章 身延線（富士～甲府）

第1節 1月13日（土）：身延～芝川 快晴

身延(10:00)～甲斐大島(11:25)～内船(12:50)～寄畑(13:50)～井出(14:30)～
十島(15:35)～稲子(16:12)～芝川(17:20)

平成19年の第1歩は、1月13日（土）快晴の中、身延線の身延駅から芝川駅の24.3kmに挑戦する。身延線を選んだ主な理由は、本年6月高校同窓会のウォーキング会（わいわい会）で1泊旅行を予定しており、その下見である。身延線の一番いいところをウォーキングコースに選定したい。そのためには、身延線88.4kmをすべて踏破しておく必要がある。昨年第22回わいわい会の三島＝熱海間で苦い経験をした。その罪滅ぼしもあった。



身延線の踏破は、富士駅からと甲府駅方面からの挑戦方法があり、色々迷ったが、両毛線を思い出し、身延駅で分断し、富士駅方面と甲府方面に歩く攻略方法で対応することにした。両毛線を桐生で分断して歩いたことが昨日のように思い出される。

5時に起床し、南林間6時14分、藤沢6時35分（沼津行き）で沼津駅へ。藤沢駅では電車は満席状態であった。やっと、茅ヶ崎で座れる。平塚辺りで明るくなる。沼津で静岡行きに乗り換え富士駅に向かう。吉原から見る雪化粧の富士山がとても綺麗であった。富士駅から8時43分の甲府行きに乗り換える。待ち時間が15分位あった。時刻表が2年前のものであったので、時間を誤ると1時間位ロスするところであった。私の古い時刻表では8時53分発であった。そういうことも考えたので早めにでたのが功を奏した。身延線ダイヤは甲府駅に向かう電車は特急を含め概ね1時間単位であった。乗り遅れると大変なことになった。8時43分発の電車は2両編成のワンマンカーであった。8時40分頃、静岡発の特急電車が富士駅を先に発車する。



身延駅

身延線は生れて初めて乗る線であり種々の面で興味一杯であった。窓からの風景を終始観察する。先ず目に付いたのは雪化粧をした富士山であった。富士宮方面から近い富士を実際に見るのは初めてであった。太平洋側からの風貌とはひとつ大きく異なっていた。右側の富士の出っ張りである。昨日 NHK で富士山にからむ番組があり、富士山の表情に関することを取り上げていたこともあり、このような観察をしたのであろう。それから、身延線は西富士宮まで複線であった。先ず静岡側に 1 km 進み、カーブしてほぼ直角に甲府方面に線路は続く。抽木（ゆのき）、源道寺、西富士宮、芝川で上り電車と離合する。特に芝川では単線のため 5 分間の待ち合わせとなる。更に、富士から西富士宮までは平野であり、沼久保から急に山間となり富士山が後方となる。稲子から身延にかけて富士川に沿って線路が続く。対岸の富士川に沿って国道 52 号線が走っていた。



子之神社

高台からの身延駅

身延駅には 10 時頃到着。改札口で精算（藤沢から 2,520 円）を済ませると同時に、冬と春の青春 18 切符について次の通り確認する。それから、帰りの身延発富士行きの電車の時刻（16 時 57 分、18 時 7 分、19 時 1 分）を転記する。

冬：12 月 1 日から 1 月 10 日発売で 12 月 10 日から 1 月 20 日まで利用可能

春：2 月 20 日から 3 月 31 日発売で 3 月 1 日から 4 月 10 日まで使用可能

身延駅前ではバスが一台あり、我々の電車を待つて身延山方面に向けて出発する。駅前のさわやかウォーキング情報もあった。身延駅から波高島までの 11 km（3 時間半）のウォ

ーキングコースであった。駅前の情報調査の関係で、結局、歩きは10時10分となる。

身延山脈を背景とした子之神社で6月生れてくる孫の安産を祈願する。まだ、喪が明けていないので遠くからのお参りとなる。身延駅を300m行った先の県道10号線（富士川・身延線）は高台になっており、身延駅が一望できた。富士川が今いる高台前方にあった。右側に身延線が走っていた。その時下り電車が来る。10時20分、身延町角内を通過。本日は概ね下り坂の県道10号線を通る。それで比較的楽なウォーキングをすることができた。鉄道が左頭上にあり、富士川が右下方にあった。このような状況が十島（とおしま）駅まで続く。11時4分大和栈道、11時11分富士川水系の一級河川長戸川を通過。11時15分、水田にある身延山に向かった矢のある装飾品に目がひかれる。郵便屋さん聞いたところドン土焼き用の飾りとのこと。



矢のある装飾品

甲斐大島駅

11時25分、甲斐大島駅に到着。丁度3両編成の下り電車がくる。11時30分、内船駅（うつぶな）まで6km、芝川まで21kmとある道路標識を見つける。11時55分、山梨県身延町から山梨県南部町に入る。12時、昭和52年頃できた五十栈道や望遠栈道を通過。富士川に沿ってあった。このとき上り電車が私の左側を通過して行く。12時32分、一級河川戸樋之沢川を通過。12時37分、対岸の国道52号線と結ぶ南部橋東詰を通過。12時50分、内船駅に到着。この駅は身延駅を除き本日唯一駅員がいる駅であった。駅前の大衆食堂春日屋で昼食を摂る。この店は朝車窓から目についた。それでこの店にしようと思っていた。この店で30分程度休息する。卵のかかった野菜いためて定食を初めて。塩コショウが利いてとても美味しかった。



内船駅
井出駅



寄畑駅
十島駅



13時16分、南部町立栄小学校を通過。校庭に卒業生が寄贈した像があった。13時50分寄畑駅に、14時30分井出駅にそれぞれ到着。井出駅は県道に沿って直ぐのところに駅舎があった。本日唯一の城山トンネルを通過。竣工は私が大学卒業と同じ時期で昭和48年3月とあった。全長は222.5mであった。トンネルの中で3台の対向車と接する。歩道もあり、照明もあり割合歩きやすいトンネルであった。トンネルを出ると佐野川があった。また、70m位の斜面から勢いよく流れる電力所があった。15時35分、十島駅に到着。この駅は県道10号線沿いではなく、踏切を渡った道路に面してあった。本日初めての出来事である。引き返しに数分ロスする。再度、下外戸（しもかいど）踏切を15時37分通過。聞くところによると、武田信虎を追放した場所がこの近郊の十島で山梨県と静岡県の間であった。

佐野川辺りから鉄道が右になったり左になったりする。それがどこで交差するか確認できず。15時45分、30m下道路下右に鉄道を見つける。十島駅から県道10号線から国道469号線となる。ここから山道となる。不安になり、犬を散歩させている人にこの道路を真っ直ぐ行くと芝川方面に到達できるか否かを尋ねる。結果はOK。後で地図を確認したところ、この近郊で大きく回り道になっていた。15時58分、山梨県から静岡県芝川町に入る。山道を上り下りして、稲子駅には16時12分到着。富士川もからみ地形上この近郊は複雑なため狐にでも騙されたような状況であった。交差点の右側に稲子駅が右側には富士宮があった。稲子駅で方向性を確認する。稲子駅で下り電車が通過する。上り電車を待つ乗客が2名いたので、上り電車の時刻は近いと思ったが、この駅では目標の営業キロである

20km に少し足りないので頑張ることにする。



16時を回り太陽は西に傾きかけているが、冬至に比べ、30分程度日没が遅くなったこともあり、4.8km先の芝川駅を目指す。県道398号線を歩く。16時55分、灯をつけた下り電車を見かける。17時15分、一級河川芝川を通過。その先に駅の灯が見える。17時20分芝川駅に到着。17時37分の富士行きに乗り富士駅へ。富士駅18時19分、熱海駅19時10分の電車で自宅へ。自宅には21時到着。万歩計は48,641歩だった。本日は風もなく1月と思えない温暖な天気恵まれ、いいウォーキングを楽しむことができた。



第2節 2月3日(土): 芝川～富士 快晴

芝川(9:17)～沼入久保(10:08)～西富士宮(11:25)～富士宮(12:29)～源道寺(12:50)～
富士根(13:13)～入山瀬(14:00)～堅堀(たてぼり、?)～
柚木(ゆのき、15:25)～富士(15:52)

身延山線の第2弾は、2007年2月3日(土)、節分の快晴の中実施。昨日はRitsひやく会があり、体調が疲れ気味のため本日の実施は迷ったが、5時の目覚ましで起床。予報でも快晴で日中は10度を超えるとのことであった。本日も前回と同じダイヤで南林間から芝川まで臨む。身延線も2度目のため、車中からの風景も余裕をもって眺める。ワンマンカーで芝川駅は無人駅のため、身延線に乗るや否や藤沢から芝川までの運賃を運転手に尋ねる。

1,890 円とのことで事前に釣銭がないよう準備する。豎堀（たてぼり）で線路の前方に雪化粧の富士が見える。残念ながら本日唯一この駅をクリアできず。源道寺で上り電車と離合。芝川駅には 9 時 17 分頃到着。この駅でも上り電車を数分待ち合わせる。

沼久保駅



上り電車の到着を待って、沼久保駅に向かう。いきなり分岐点に差し掛かり、少し進路を迷う。直線は富士・富士川方面の県道 10 号線に出る道筋、左折は立体交差となっている羽鮒高架橋を通り富士宮方面の県道 25 号線（富士宮芝川線）に出る道筋だった。後者を進む。高台となっている羽鮒高架橋から富士川を越える 10 号線が一望できた。10 時に富士宮市に入る。JR 線は右下にあった。10 時 4 分、前方に雲ひとつない雪化粧の富士山も見る。こんな素晴らしい富士を近くで見るのは初めてで、非常に感激した。電車の中から富士山を観察してきた。ひとつ発見した。右のこぶの山は吉原辺りから目立ち始める。こぶの上が少し抉れていることも発見した。裾野の吉原辺りからは左が滑らかで右の裾野はでこぼこになっているが、富士宮辺りから逆で右の方が滑らかであった。



沼久保方面からの富士山

10 時 8 分、沼久保駅に到着。上り特急電車が通り過ぎて行く。駅前には沼久保駅の句碑があった。高浜虚子の作品を転記。

とある停車場富士の裾野での竹の秋
ぬま久保で降りる子連れの花の姥

沼久保駅からの富士も最高であった。鎌倉彫刻を門前にもった東漸寺を 10 時 40 分通過。11 時 10 分、潤井川（富士見橋）を渡り西富士宮駅に進もうとする。飢渴踏切（11 時 11 分）を渡ろうとするが渡らず引き返す。道路状況から西富士宮駅には行けないと判断したからである。11 時 21 分、中里踏切を越え JR 線の左側になる。



西富士宮駅と浅間大社

右手に西富士宮駅が見える。11 時 25 分到着。男女をモデルにした黒っぽい銅像と噴水が駅前にあった。噴水の周りにはゆたかなる明日の花壇があった。それから西町交番や焼肉屋も印象に残った。駅前には商店街があり富士宮駅まで 1.3km 位続いていた。



浅間大社

商店街にはパチンコ屋珥学や曾根人形富士宮店があった。雛人形が沢山飾られていた。11時40分赤色の鳥居(昭和30年1月吉日建之)が印象的な富士宮本宮浅間大社に立ち寄る。この大社は商店街に面していた。お参りしていた人に鳥居と富士を背景に写真を撮ってもらった。境内には流鏝馬像があった。本宮で家族の健康と6月に生れてくる孫の無事を祈願する。お参り後、休息場で温かい甘酒をご馳走になる。商店街は神田楽市の旗がたっていた。バザーや模擬店もあった。富士宮駅に向かう途中12時のサイレンを聞く。12時5分、富士宮駅前の中華料理龍鳳(26-4032)に入る。人気のある店なのかたちまち一杯になる。野菜炒め定食を注文。とても美味しかった。昼食後、富士宮駅には12時29分到着。聞くところによると、富士宮はやきそばが有名であり、残念な昼食となった。



富士宮駅

源道寺駅

源道寺踏切を越えてJR線の右側になる。12時50分、源道寺駅に12時50分到着。この駅から5分位いった先に一之瀬橋(一級河川:弓沢橋)があった。ここからの富士も印象に

残ったのでカメラに収める。写真の手前には JR 線の鉄橋があった。13 時 13 分、富士根駅に到着。駅前に寿司屋が 1 軒あった。甲府駅と富士駅間のダイヤ（普通電車）は 2 時間に 1～2 本程度しかないが、富士駅と西富士宮駅の間は 1 両編成の電車が 20 分間隔で運転されている。それで、ウォーキング中頻繁に 1 両編成の電車と対面した。鉄道沿線に多くの企業があるため、迂回を余儀なくされる。中天間踏切（13 時 22 分）を越え、鉄道の左側となるや、再度天間踏切（13 時 32 分）を越え右側となる。途中、見留目（みるめ）神社前を通過する。名称がユニークなので由来等をカメラに収める。



富士根駅

見留目神社

13 時 40 分、高速道路工事中の橋桁行列前を通過。14 時入山瀬駅に到着。駅前には蕎麦屋と仕出屋の看板をもつ店があった。14 時 5 分桜を岸边にもつ曾我十郎橋を通過。ここからの眺めがいいので富士を背景に写真を撮る。14 時 15 分、サークル K（富士市久沢字楠）に立ち寄る。14 時 25 分、長沢踏切で警察の取り締まりがあり。軽ライトバンが一時停車しないため御用となる。



入山瀬駅

潤井川橋からの富士山

14 時 45 分、潤井川橋（潤井川）を通過。JR 線は急に右にカーブをきる。14 時 55 分、県立富士高校前を通過し、富士早川沿いを歩く。鴨がまもなく訪れる春を楽しんでいる感じであった。この近郊に堅堀駅があるとのことであったが、本日唯一この駅をクリアしそこなう。通行人に聞いてはじめて判る。15 分位後戻りを余儀なくされるが、断念する。柚木

(ゆのき) 駅はこの道なりにあるとのことであった。15時25分、柚木駅に到着。駅舎は高架した鉄道の下にあった。東海道線踏破で富士駅近郊の道に出会う。懐かしい思いがする。昼食に立ち寄ったかなざわもあった。富士駅には15時52分到着。16時3分の電車で家路へ。自宅には18時25分到着。帰りのJR線の運賃は1,620円だった。本日の営業キロは19.2km、万歩計は43,777歩であった。本日で身延線の半分を踏破した。



柚木駅 富士駅

第3節 2月12日(月): 身延～鯉沢口 快晴

身延(9:30)～塩之沢(10:10)～波高島(11:20)～下部温泉(11:53)～甲斐常葉(13:05)～市ノ瀬(13:54)～久那土(15:32)～甲斐岩間(16:10)～落居(16:36)～鯉沢口(18:00)

身延線の三弾は、先週に引き続き3連休の最後である2007年2月12日(月)に挑戦。本日も先週と同様快晴に恵まれた。本来ならば昨日挑戦すべきであったが、高校同窓幹事会の後始末等で本日となった。本日から先週までと異なり富士からではなく甲府からの攻略となる。4時半に起床し、南林間始発の5時半の電車で町田へ。本来ならば、5時48分の電車で行けば、甲府まで乗り継ぎが最小限で行けるところを18分早く出たため、高尾と大月で乗り継ぎを余儀なくなれる。結局八王子発6時35分の電車に乗り継ぐこととなる。高尾から大月までは3名ですきま風を感じ寒い行程となった。

1番線・2番線である中央線の下りホームと同一ホームに5番線・6番線である身延線のホームがあった。一度誤って階段を上ったが、直ぐ気がつき元に戻り、1番・2番線の後方に急ぐ。3分の待ち合わせで8時11分発の鯉沢口(かじかざわぐち)行きの電車が接続していた。一目散で飛び乗る。金手(かねんて)駅と善光寺駅は今年の中央線踏破の際、ク

リアしたので記憶にあった。甲府から鰍沢口までの 21.6km に 12 駅の駅があった。鰍沢口まで平野が続いていた。8 時 47 分に鰍沢口駅に到着。鰍沢口はひらがなで表現すると、「かじかざわぐち」で清音と濁音が交互で実に意外な発見をした。この駅は山間の入口にあった。身延方面の各駅電車は 9 時 38 分までなし。その前に 9 時 6 分発の特急電車ふじかわ 4 号（2 両編成）があった。身延まで特急料金は 310 円であった。鰍沢口からは山間となる。途中、甲斐岩間と下部温泉で停車する。特急電車に乗った御蔭で身延駅には 9 時 30 分に到着。



特急乗車券 身延駅



改札口で運賃の精算をする。町田から 2,830 円（内 310 円特急料金）を要す。塩之沢駅に向かって県道 9 号線は商店街があった。9 時 41 分、願い橋を通過。富士川の土手を歩く。土手は何となく春の兆しを感じた。一級河川椿川を 10 時 6 分通過。最初の駅である塩之沢駅には 10 時 10 分到着。ここから、県道 9 号線を歩き脇道を歩く。駅前の広場から写真を撮る。駅前で親子がキャッチボールしていた。10 時 26 分、身延町立身延東小学校前を通過。帯金教場跡地に以德報徳の銅像があった。薪を担いでいたので二宮尊徳と思った。10 時 39 分、八幡宮の横を通り抜け、県道 9 号線に戻る。11 時 3 分、身延町上八木沢という地名を通過。11 時 12 分、比較的川幅のある湯川橋を通過。小職の歩数で 269 歩あった。



塩之沢駅 波高島駅

11時20分、身延駅前でウォーキングにあった波高島（はだかじま）駅に到着。駅前には波高島の地名の由来の看板があった。かつては畑ヶ島だったとあった。また、10分位で到着と記載した横内タクシーの電話番号のある看板があった。国道300号にぶつかり右に行く。常葉川（ときわ）にそって下部ホテルが目にとまる。このホテルと目と鼻の先に下部温泉駅（11時53分）があった。その前に11時51分、下部踏切と常葉川を渡る。歩いている路を直進した先に下部温泉郷が広がっていた。駅前には温泉郷にもかかわらずひっそりしていた。駅前の案内状で温泉郷ガイドマップをもらう。下部はほたるの里なので、5月下旬から6月下旬にかけて1年でもっとも忙しいとのことであった。駅前の丸一食堂で放蕩を注文する。店員から煮込みに15分位かかるとのことで了解を求められた。当然OKと答える。味噌味で野菜がたっぷりありとても美味しかった。放蕩は2度目であるが、今回の味は印象に残った。12時45分、竹の島踏切を通過し、鉄道の右側になる。



12時52分、ホタルの里一色まで3.2kmとある看板前を通過。13時5分、甲斐常葉駅到着。駅前で70歳位の老夫婦に市川大門方面の車での道を聞かれる。地図を見て対応する。市ノ瀬駅への路は不安であったが、鉄道の脇の道をつたい歩きする。途中、川崎から来たという伊藤さんと出会う。昨日より甲府から歩いているとのことであった。直近は御殿場線を歩いたとの話であった。私のような人がいることを知ってほっとした。下部への道筋も聞かれる。なお、市ノ瀬駅は真っ直ぐ行った先とのことであった。しかし、坂になり、道路が通行止めとなる。民家の前で老人に市ノ瀬駅の路を聞く。少し引き返し十字路の先を右折して行った先にあるとのことであった。



13時54分、市ノ瀬駅に到着。路を引き返し、本栖湖方面に向かう幹線道路に出る。不安であったため、ここでも祖父に似た老夫婦に尋ねる。指で幹線道路に向かいなさいと教えていただく。坂道を上ると、まもなく北川の交差点に入る。そこから左折し、峠越えとなる。14時32分、300m位の下部隧道を通り抜ける。その先に木喰（もくじき）の里があった。15時、三沢川（車田橋）を通過。その先に峡南農学校跡地を利用したきもの資料館があった。15時16分、前方を上り電車が通過する。久しぶりに鉄道を見てほっとする。15時25分、鉄道を頭上にして右側に出る。150m先に峡南高校とある看板があった。久那土（くなど）駅には15時32分到着。久しぶりにセブンイレブンやロソンのコンビニに出会う。16時10分、甲斐岩間駅に到着。特急が止まるだけあり、割合駅前賑やかであった。



六郷中学校前を16時20分通過。光岳寺が鉄道の直ぐ上にある落居駅には16時36分到着。この辺りから少し寒くなりコートを再度着る。17時、2001年1月できた新割石トンネルに差し掛かる。全長は802mあった。車の騒音がうるさかったが、歩道と車道が分離されており比較的歩きやすかった。17時16分、新石年橋を通過。この橋で鉄道が左手側になる。18時黒崎踏切を越えた先に鰍沢口駅があった。朝話しかけた駅員さんと再度会う。身延駅から歩いてきたと話すと驚いていた。知人にも遠方まで歩いた人がいるとのことであった。18時10分の電車で甲府まで、そこから18時56分発かいじ120号で八王子まで帰る。自宅には21時20分到着。本日の営業キロは23.3km、万歩計は59,111歩だった。帰りの運賃は3,110円（うち特急券900円）だった。



落居駅 鰻沢口駅

第4節 2月17日(土)：鰻沢口～甲府 晴れ

鰻沢口(8:47)～市川大門(9:55)～市川本町(11:25)～芦川(10:45)～甲斐上野(11:12)～東花輪(12:25)～小井川(?)～常永(13:58)～国母(14:40)～甲斐住吉(15:33)～南甲府(15:55)～善光寺(16:53)～金手(かなんて、17:09)～甲府(17:45)

身延線の締めは、5日振りの2007年2月17日(土)実施。本日の予報は晴れで午後から曇りで夜遅く雨であった。4時半に起床し、南林間5時48分、町田6時6分、八王子6時35分、甲府8時11分の電車発車時刻で鰻沢口に向かう。鰻沢口には8時47分着。本日乗った電車は中央本線方面には、それぞれ乗り継ぎ時間が短く効率的なアクセスの組み合わせ電車であった。電車の窓から本日のコースの道筋を見る。遠くに雪を被った北岳が見える。身延線は蛇行して鰻沢口まで進む。南甲府駅と終点鰻沢口駅で下り電車と離合する。山や大きな川もなく非常に平凡なコースに思えた。しかし、歩いてみると鉄道に沿った道がない箇所が多々あり、鋸型で歩くことが余儀なくされた。従って、ウォーキングの醍醐味の一つである路に迷う場面と向き合う。



朝の鰻沢口駅 市川大門駅

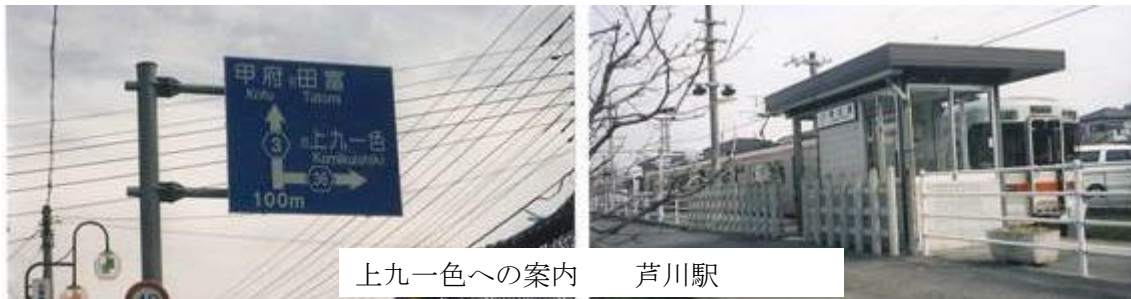
鰍沢口で運賃の精算（2,110円）を済ませ、本日の挑戦が始まる。駅前には風で揺れている風林火山の旗と市川タクシーの看板があった。鰍沢口駅前は閑散としていたが、甲府エリアでは約半分の割合でこの駅止まりとなる重要な拠点駅であった。落居以降の駅とはアクセス面で大きな格差があった。特に、落居駅のように特急電車が停車しない駅は2時間に1～2本位しかなかった。鰍沢口駅は静岡エリアに喩えると西富士宮駅または芝川駅に相当した。暫く富士川に沿った県道4号線を歩く。途中、鰍沢口に9時6分到着の特急電車と出会う。9時10分には池尻川橋、9時19分には梅沢川橋に到着。富士川土手に沿ったサイクリングコースがあった。9時32分富士川大橋を通り、笛吹ラインに入る。2km先に大門碑林公園がある旨の看板もあった。高田踏切を通過した先に市川大門駅（9時55分）があった。駅舎は市川大門下地区公民館の中にあり、赤い柱と青い屋根のある竜宮城風の公民館であった。駅前には市川三郷町観光案内図があり、その案内図の中に四尾連湖（しびれんこ）・昼蛾ヶ岳（ひるがだけ）ハイキングコース（役場：055-272-1101）があった。しかし、現在持参の地図には市川三郷町の地名はなかった。この町は市川大門町と六郷町それから三珠町が合併し生まれた町と思われる。それにしても合併が多すぎる。現在宿泊の判断不明な富士旅館もあった。JR線の右手は小高い山の裾野であった。



金剛宝寿院

市川本町駅

市川警察署前を10時10分通過、市川南幼稚園の先に1.2kmとある四尾連湖の看板があった。10時20分、宝寿院踏切の先には金剛宝寿院があった。昨年他界した父の霊にお参りする。また、この踏み切りから市川本町駅が見える。少し行き過ぎていたので引き返す。11時25分、市川本町駅に到着。駅前では2人の老人が酒盛りをしていた。この駅の駅舎もユニークであった。



上九一色への案内 芦川駅

10時40分芦川を通過。上九一色の交差点を右折した先に芦川駅（10時45分）があった。甲府方面のワンマンカーが丁度来る。私が乗るのではないかと少し止まってきていた。心温まる思いがした。学校のグラウンドには二宮尊徳の像があった。赤い屋根と不二家のペコちゃんマーク風が印象的な甲斐上野駅には11時12分到着。また綺麗な洗面上の建物があつた。



甲斐上野駅 北岳

この駅前の山裾には、個人なのか公的施設かは不明である城があつた。鉄道に沿ってビニルハウスのトンネルがあつた。中身の植物は煙草のようであつた。11時35分、農道踏切に差し掛かった先で引き返す。前を笛吹川が立ち塞がり引き返しを余儀なくなれるからだ。この踏切の手前には笛吹川に沿って京西電機や東日本イノアップの工場があつた。桃林橋から北岳を写真に収める。笛吹川の浅瀬には鴨の大群が昼寝をしていた。12時25分、東花輪駅到着。駅前の新華飯店で中華料理ではなく焼魚定食を注文する。先客が5人いたが、最近の記憶する中では今ひとつの味であつた。



東花輪駅



常水駅

30分位休息して、小井川駅を目指す。手前で小井川駅が近くにある旨の看板を見つけるがこの駅は残念ながらクリアできず。身延線では堅堀駅に続き2度目である。少し、鉄道から離れたのが敗因であった。昭和町の看板を13時22分見つけ、再度13時44分見つける。つまり20分間この近郊をループすることになる。第二河東踏切を13時50分通過し再度戻る。駅舎がユニークな常永（じょうえい）駅には13時58分到着。この辺りから曇り空になる。14時25分、中央自動車道と交差する押越立体に差し掛かる。日本瓦の屋根が印象的な国母（こくぼ）駅に14時40分到着。



国母駅



甲斐住吉駅

甲府バイパスに惑わされてこのバイパスを上下する。14時58分、甲府市中央卸市場前を通過。15時5分、身延線が道路下を通過し左手側になる。南河原踏切前を15時7分通過。荒川が立ち塞がり一般道は行き止まりとなる。再度バイパスに戻り荒川（彩火橋）を越える。15時16分であった。橋を上り特急電車が通過して行く。15時20分甲府駅まで3.5kmの看板を見る。しかし、ここから甲府駅までは遠かった。JR線に沿った幹線道路がなく鋸型に進むことになる。それ故行き止まり引き返しが余儀なくされる。15時33分、駅舎のない甲斐住吉駅に到着。



南甲府駅

善光寺駅

住吉神社前を 15 時 40 分通過。遠くから 6 月に生れてくる孫の安産を祈願する。15 時 55 分、木々の花壇が印象的な駅ビルである南甲府駅に到着。このシリーズはじめて途中駅で近代的な駅舎を見かける。駅ビルには特急料金 310 円の宣伝した看板があった。近くには天昇殿アビオセレモニーホールがあり、ここでも父の今年の突然の他界を思い出す機会を得た。近くの広場では老人クラブのゲートボール試合があった。雨をぼつり微かに感じる。熊野通りを通る。16 時 11 分、熊野神社前を通過。袋小路を何回も通りやつのことで高台にある善光寺駅には 16 時 53 分到着。雨が本格的となる。南甲府から約 1 時間要す。

善光寺駅と次の金手（かなんて）駅は中央線踏破の際通過した駅で馴染みがあった。しかし、歩く方向が変わると同じ駅でも別の駅となり新鮮さもあった。金手駅には 17 時 9 分到着。駅前で愛犬セブンと同じような模様のパンダ犬に出会う。甲府城跡である舞鶴城公園前には 17 時 25 分到着。雨で一段とうす暗くなったこともありここでもこの近郊のクリアに 20 分位要す。東横インと公園の往復を 2 度する。甲府駅にはやっと 17 時 45 分到着。18 時 8 分の高尾行きに乗り家路に。自宅には 21 時 15 分到着。甲府からの運賃は 1,890 円であった。本日の営業距離は 21.6km、万歩計は久しぶりの 6 万歩を超え 62,326 歩だった。



金手駅

甲府駅

本日のコースが一番やさしいと思ったが、意外には 4 回の中で一番難しかった。しかし、昨年から思い続けた身延線 88.4km の踏破を終え満足感で一杯である。帰りの電車の中で今後の歩きの作戦を考えることができよかった。これで富士山の周りを歩き終えた。身延

線を歩いて印象的なことは次の点である。

- ① 雪のある富士山を身近で観察できた。吉原辺りと富士宮辺りとは様相が異なる。西富士宮近郊の高台から見た富士は最高であった。
- ② 富士宮には名物やきそばがあり、下部温泉郷がホタルの里であることの学習ができた。
- ③ 下部温泉駅前の放蕩の味は思い出に残った。
- ④ 富士宮本宮浅間神社と富士山を背景に写真を撮ることができた。
- ⑤ このシリーズの一番の難所は芝川近郊と市ノ瀬近郊であった。
- ⑥ 鵜沢口から西富士宮の間は山間であった。